

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



60

65

70

75

かゝるは

すま木のみ

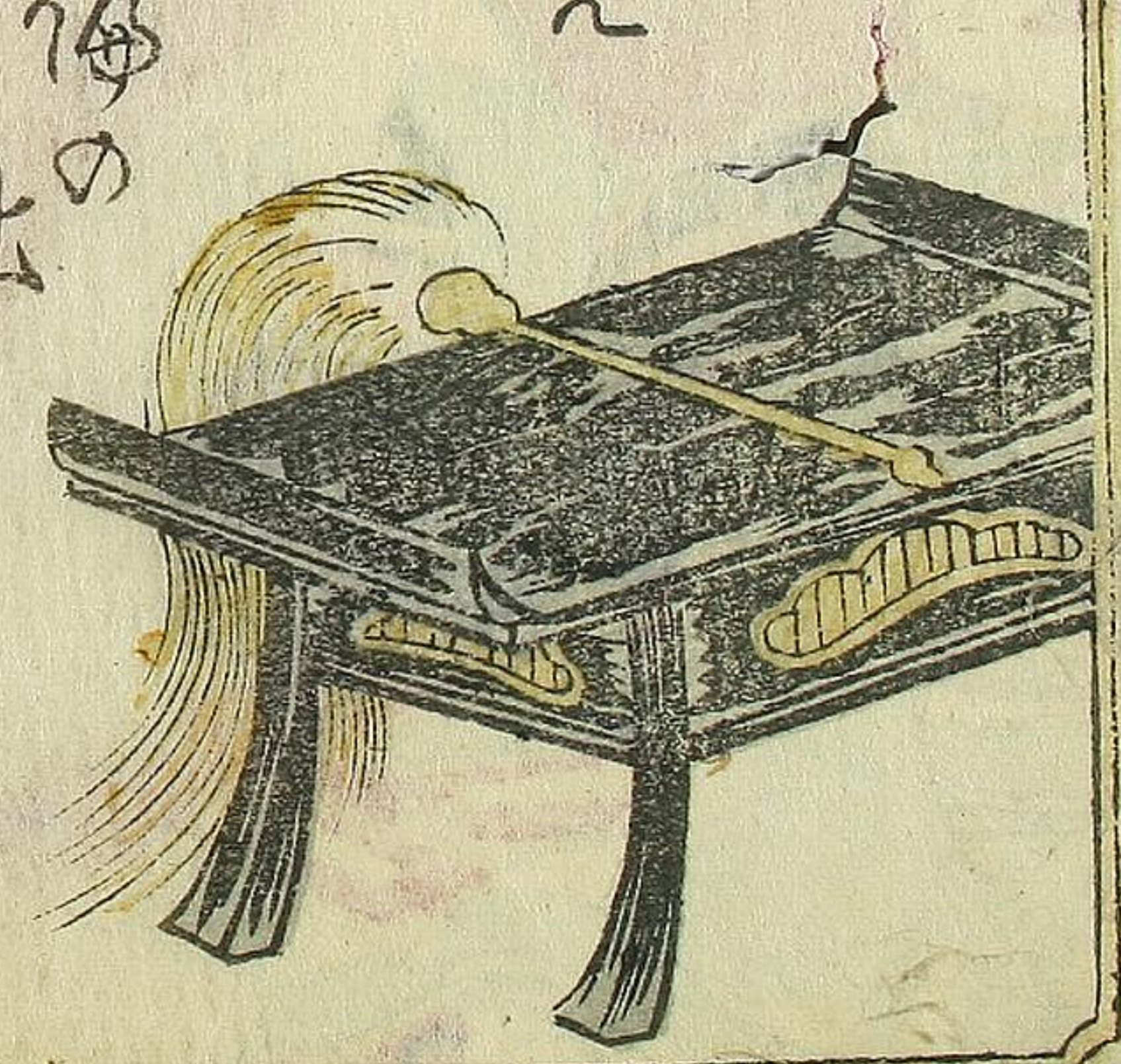
昔の物語

泉竜高子傳の上

序種画

延壽寺

うらな



48-8082

小倉山青樹榮昔日新話三編之序

享保年中下野の賊小白鼠吉五郎い奥州の曹良夫某を救いて後罪極るの際不思議も助命を蒙りとちん蓋武藏野鼠小僧次郎太夫い賊いされども商人と犯され諸大名の遊金と奪ひ貧民を憐れ現世に隠徳を施し後世に至りて陽報あり今墓は参詣者少あらず常言ふ云智者の罪へ大成と雖も地獄は不落と爰を以て云ふらん就中青木が昔行は是より少く因あれども氏の嘗て賊と為る其頃異人と内應し貧欲み耽る商人と叱し貧民を施すと屢々あり蓋し此巻中は破れ施行のさる青木士が遙る以前の施しあれども世君の多く知りぬすの慶忘二年の貧民たのれに其景況よとて代へ今爰は因を以て及び見者も必ら疑ふべから

明治十の初冬

泉竜高子傳是正誌



新吉原の
永喜屋本
娼妓花柳

下野戸田家の
馬術の教師
目賀田其



青木弥太郎



下部僕内実の
おろか黨勝田次郎



大家の若後家
実ハ雲霧の於辰

押上村無妙院の
住持愚鈍味尚



賊黨
小倉家長次郎

再びとく相のやを絡のち夜に因る者
 八面や鉄半木と世に仕立統振りの池殿中お化て
 以唯細掃拂の足指丸本者の某ひつ望や其令
 の花柱ひさ中あるる丹うあふあふ入あふあ
 多密(有)せもひせせと傍りの黄巻と
 引さひ秋家へ着りて世にうがまおととに打
 笑ひてはくろを方の働き初く奉告めと世
 上六再びうて奴おとて上の法をとれ忘るる
 能き世例と捨世と定てあ辰の宗と笑ひ
 今日之二人う背お代いさあんと懐舟より
 其を数数をつつと世を以希後半の道者
 おろろ長次郎を橋渡猪田は糸河田舎のぬ
 料理人とも助きんご入ありて長は希始め

● 豪傑者本が帰してとて入るる
 才と感下の辰が早初漢貴十一入
 舟入る物うろ活らるるして口方の
 咄し由長は神の夜由の芳むくあり
 おし由者本が門(能)能く相お強く
 人の奪をさす小のけ絲を希始め
 人の入はは出でやうすと定め今徳川の
 法後入政をと系甲ううう万民海岸の
 希しと承知を清くの使臣を信はせ
 飢死さんより又家へありて合力を乞んと
 自らもさるる小名を新ねんと下し
 慨とんおんと小者の室に起て東栗
 奪をさすは形勢看長より世を

次

○ 八所口方の密氏とも老



○ 八所口方の密氏とも老
 教息は今又あらまのわね
 とも初る多宝と
 ありぬと縁
 よう知
 へ徳侯へ
 遠白
 ますとあとも老半
 横は徳川の臣ホ

と。世 抱へ 先 我 抱 児 小 喜 た と



○ 八所口方の密氏とも老
 教息は今又あらまのわね
 とも初る多宝と
 ありぬと縁
 よう知
 へ徳侯へ
 遠白
 ますとあとも老半
 横は徳川の臣ホ

と。世 抱へ 先 我 抱 児 小 喜 た と

久々 奉とふら入りの余儀のねむり

青木三郎

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ハ米と

ついでに物言ふおき
たてど人の侍様
あて候ふと



猫の夜と

きふ四ツ
送ふ家板傳ひて遠世に
遂修くく講談する御座
の訂定と踏損らるるお
きふお中もいざ

きふお中もいざ



きふお中もいざ

あつては
あつては
あつては
あつては
あつては

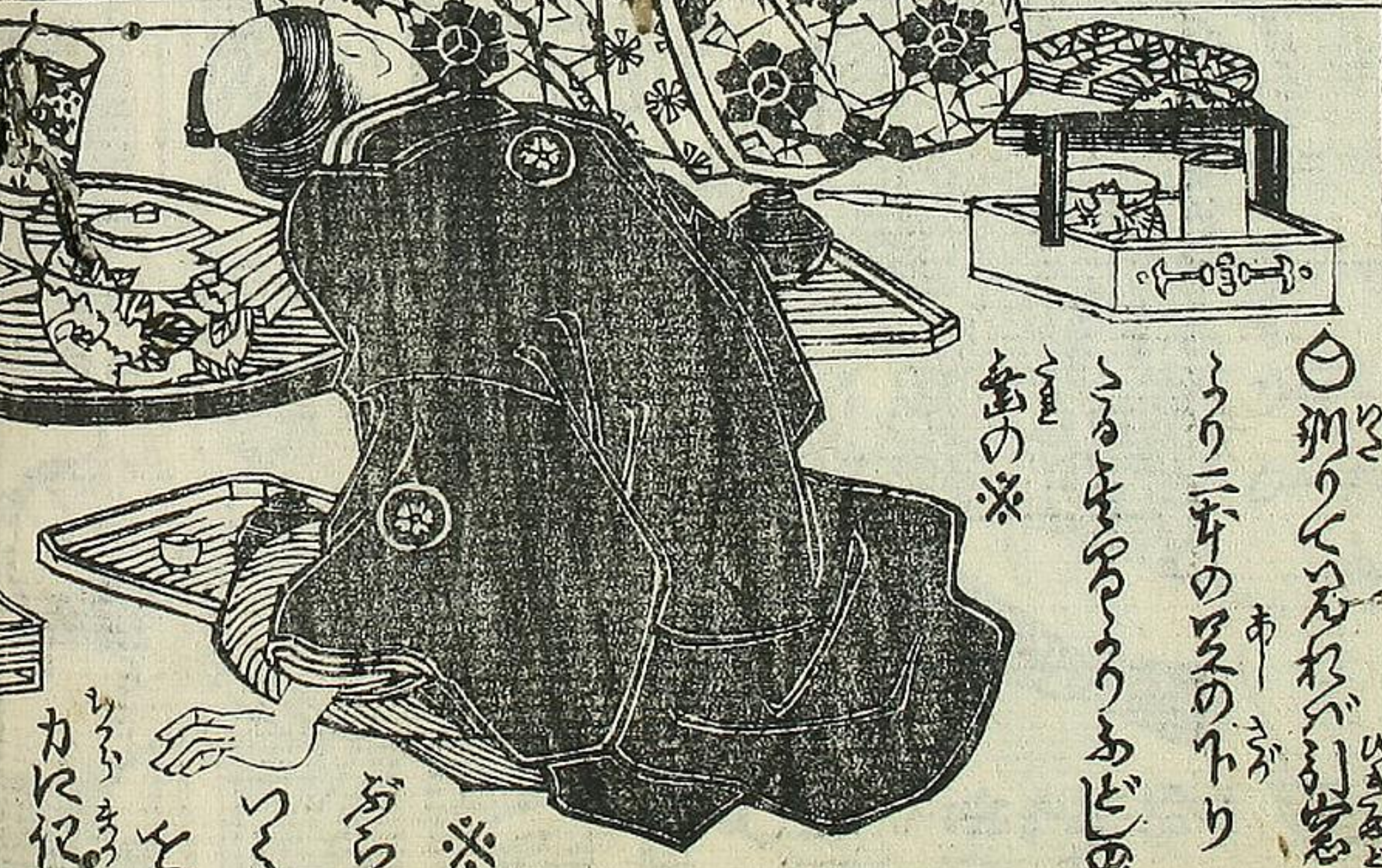


あつては

あつては
あつては
あつては
あつては
あつては



〇初つておき
ふり二平の豆のとり
あつては



あつては
あつては
あつては
あつては

あつては
あつては
あつては
あつては
あつては

初冬の夜中

おのくとの夜中

盗賊の弟知事

ハチの娘終と西の海

月夜の所存の所

乃まの物語

孫と弟の物語

美及弟と弟の物語

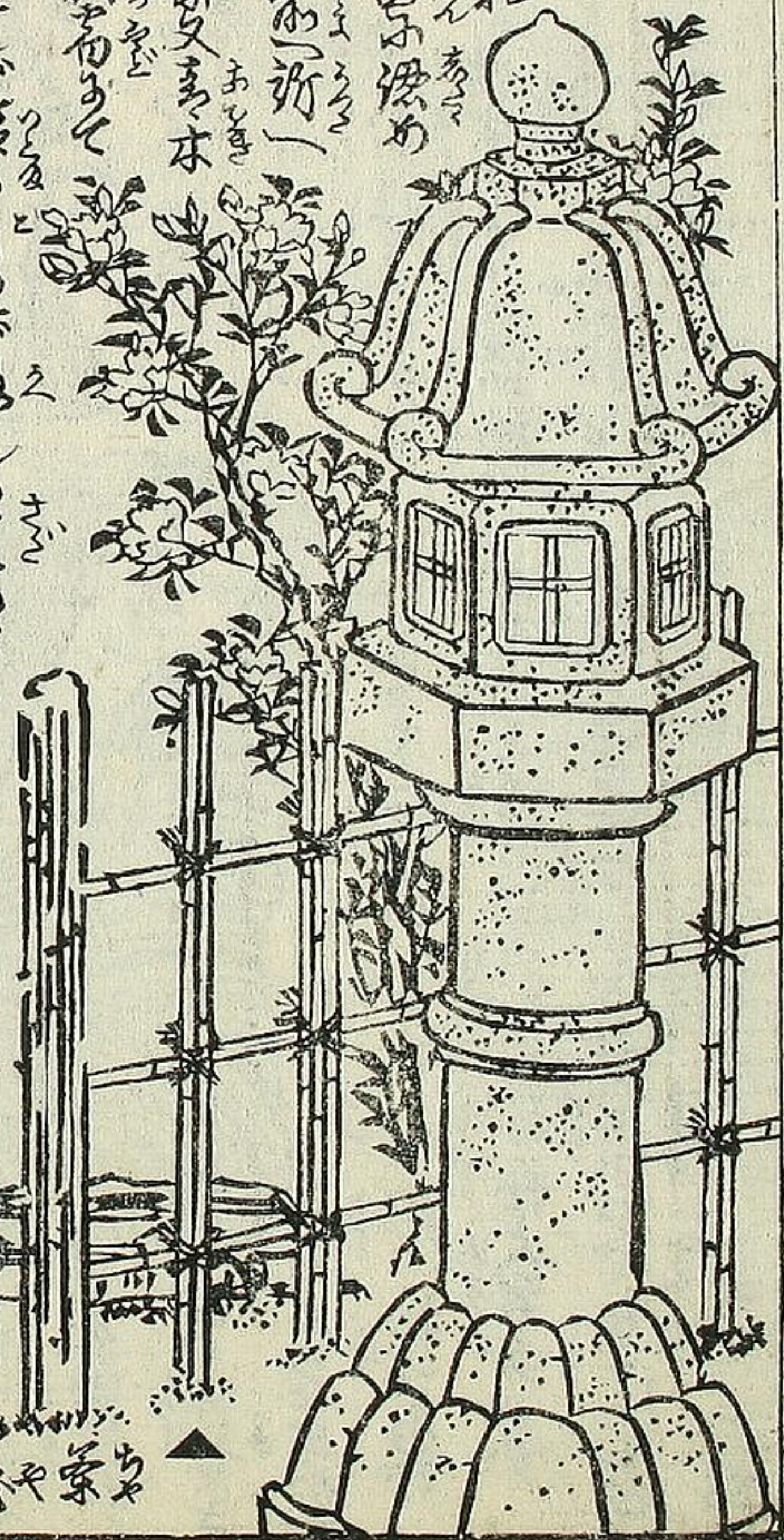
廊の物語

いと仲の物語

くらの物語

世の物語

ある小倉と弟の物語



初編ヨリ追々出版
初編ヨリ六二編ニ刻成
故人種員稿種彦作
系叔菊寿堂主人當今
日之秋夜社主之後編と
出板する小版のそと
月氏小乞の板店より一層
念入りつぎお板を看る万
陸續の末と伏て希ふ
明治十年 板元致白

小倉山 青樹榮 昔日新話

泉音亭是正作
初編ヨリ追々出版

この徳川家の旗下小倉木弥太郎小倉菴長吉唱妓
賑ひ小春情小事寄暴借強談の悪事青木の細岩難
辛苦ホと記一繪入の甚及紙綴りこれ近世の珍書あり

白蓮物語 豊貴

假名手本忠臣蔵

露光作
芳虎画

延壽百人一首

中本一冊
玉蘭齋画

延本錦繪問屋

日本橋通三丁目四番地
延壽堂 林九屋鉄次郎板元



泉竜亭是正印
櫻齋房種画



小倉山すまの木の葉

昔々新話

泉

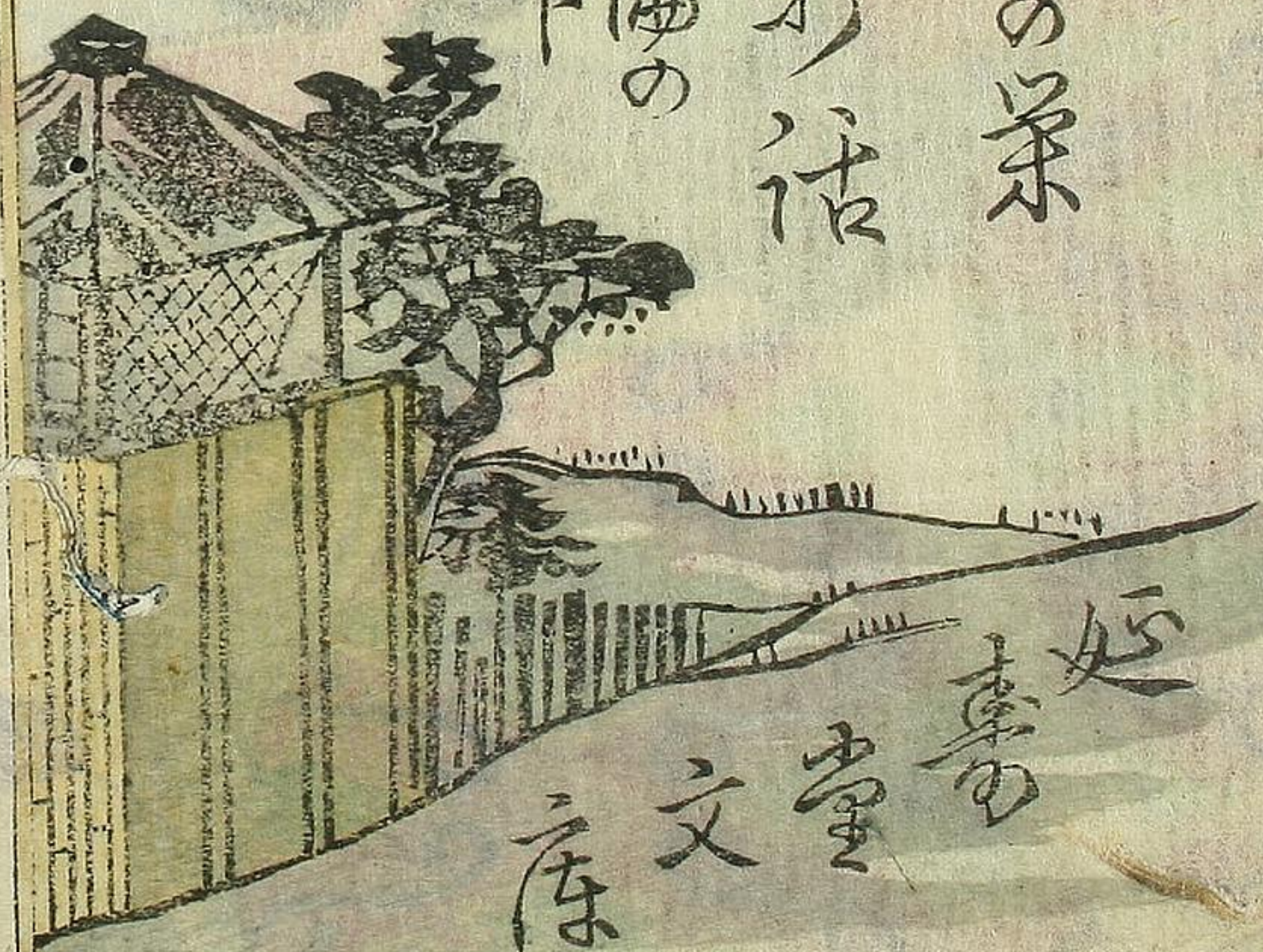
竜亭

他

三偏の

下

高種画



延

喜

文堂

彦

上の巻より

初めは本巻の物語を送りて其巻末に寄る

おかしき

おかしきをいふは中々失儀の天下の政は中々いふは

後梅の正

そむじの梅の正とて未去の梅結せと汝木とて心知り

つら

つら切どりの強盗のつら切どりの

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

あつ

あつひとちんちん

事法に於ては、如く、おぼしめし、
 母の御人のあつた、おぼしめし、
 のとも、おぼしめし、
 まゝ、おぼしめし、
 して、おぼしめし、
 婦人の、おぼしめし、
 和尙の、おぼしめし、
 挨拶、おぼしめし、
 新、おぼしめし、
 物へ、おぼしめし、
 例、おぼしめし、



事法に於ては、如く、おぼしめし、
 母の御人のあつた、おぼしめし、
 のとも、おぼしめし、
 まゝ、おぼしめし、
 して、おぼしめし、
 婦人の、おぼしめし、
 和尙の、おぼしめし、
 挨拶、おぼしめし、
 新、おぼしめし、
 物へ、おぼしめし、
 例、おぼしめし、



事法に於ては、如く、おぼしめし、
 母の御人のあつた、おぼしめし、
 のとも、おぼしめし、
 まゝ、おぼしめし、
 して、おぼしめし、
 婦人の、おぼしめし、
 和尙の、おぼしめし、
 挨拶、おぼしめし、
 新、おぼしめし、
 物へ、おぼしめし、
 例、おぼしめし、

事法に於ては、如く、おぼしめし、
 母の御人のあつた、おぼしめし、
 のとも、おぼしめし、
 まゝ、おぼしめし、
 して、おぼしめし、
 婦人の、おぼしめし、
 和尙の、おぼしめし、
 挨拶、おぼしめし、
 新、おぼしめし、
 物へ、おぼしめし、
 例、おぼしめし、

事法に於ては、如く、おぼしめし、
 母の御人のあつた、おぼしめし、
 のとも、おぼしめし、
 まゝ、おぼしめし、
 して、おぼしめし、
 婦人の、おぼしめし、
 和尙の、おぼしめし、
 挨拶、おぼしめし、
 新、おぼしめし、
 物へ、おぼしめし、
 例、おぼしめし、

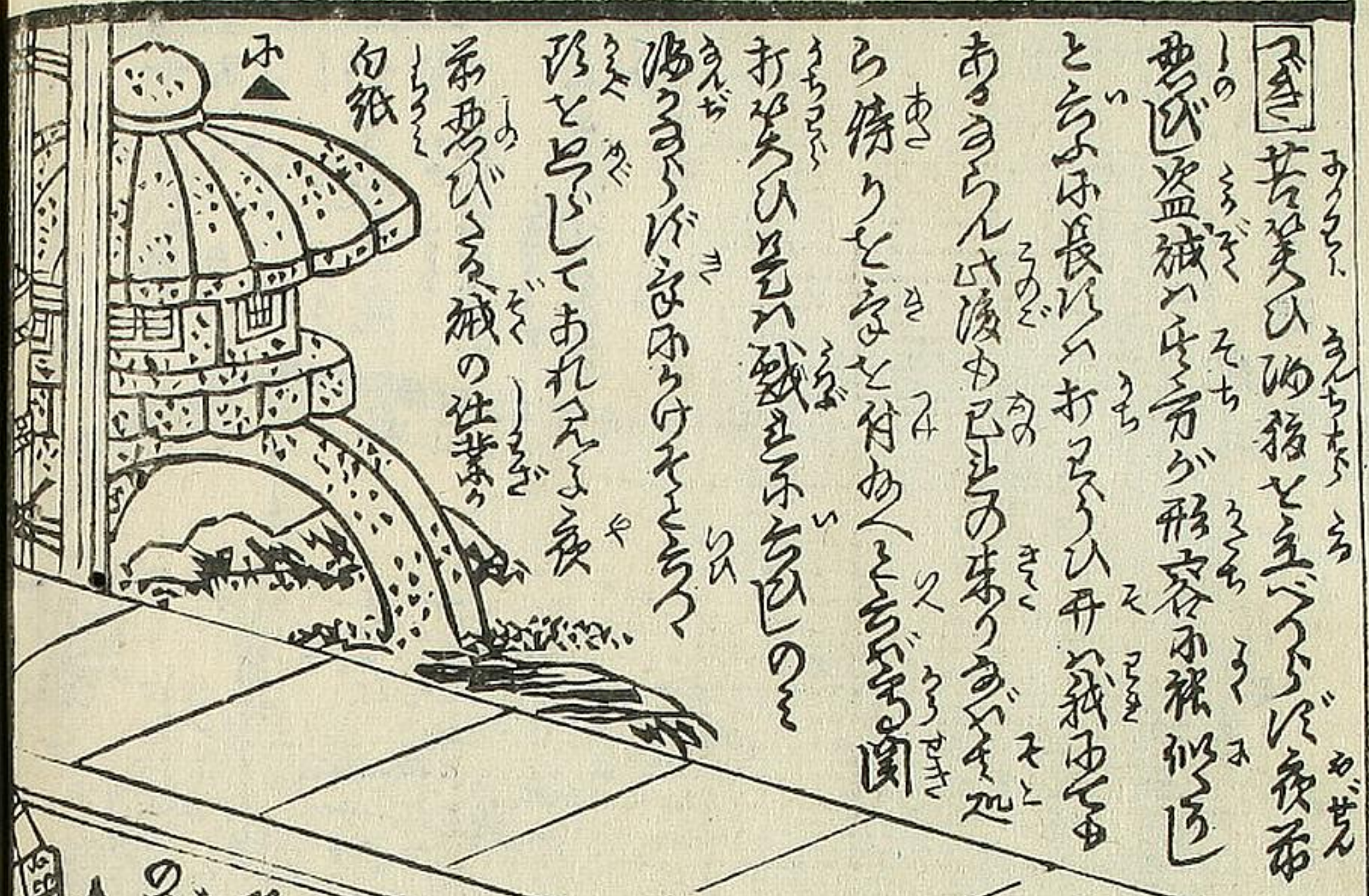


事法に於ては、如く、おぼしめし、
 母の御人のあつた、おぼしめし、
 のとも、おぼしめし、
 まゝ、おぼしめし、
 して、おぼしめし、
 婦人の、おぼしめし、
 和尙の、おぼしめし、
 挨拶、おぼしめし、
 新、おぼしめし、
 物へ、おぼしめし、
 例、おぼしめし、

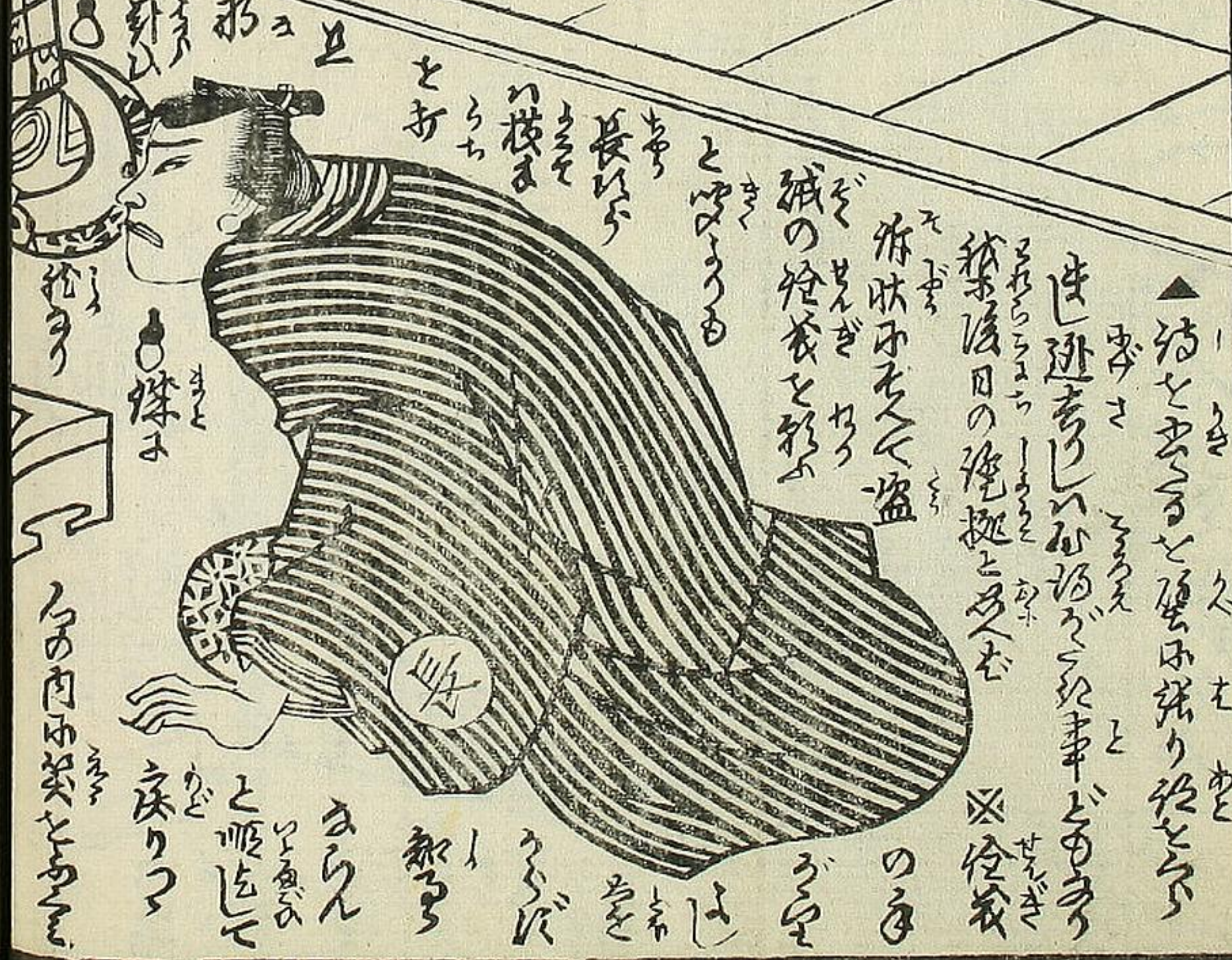


楽符を徳地
小舟の上にお

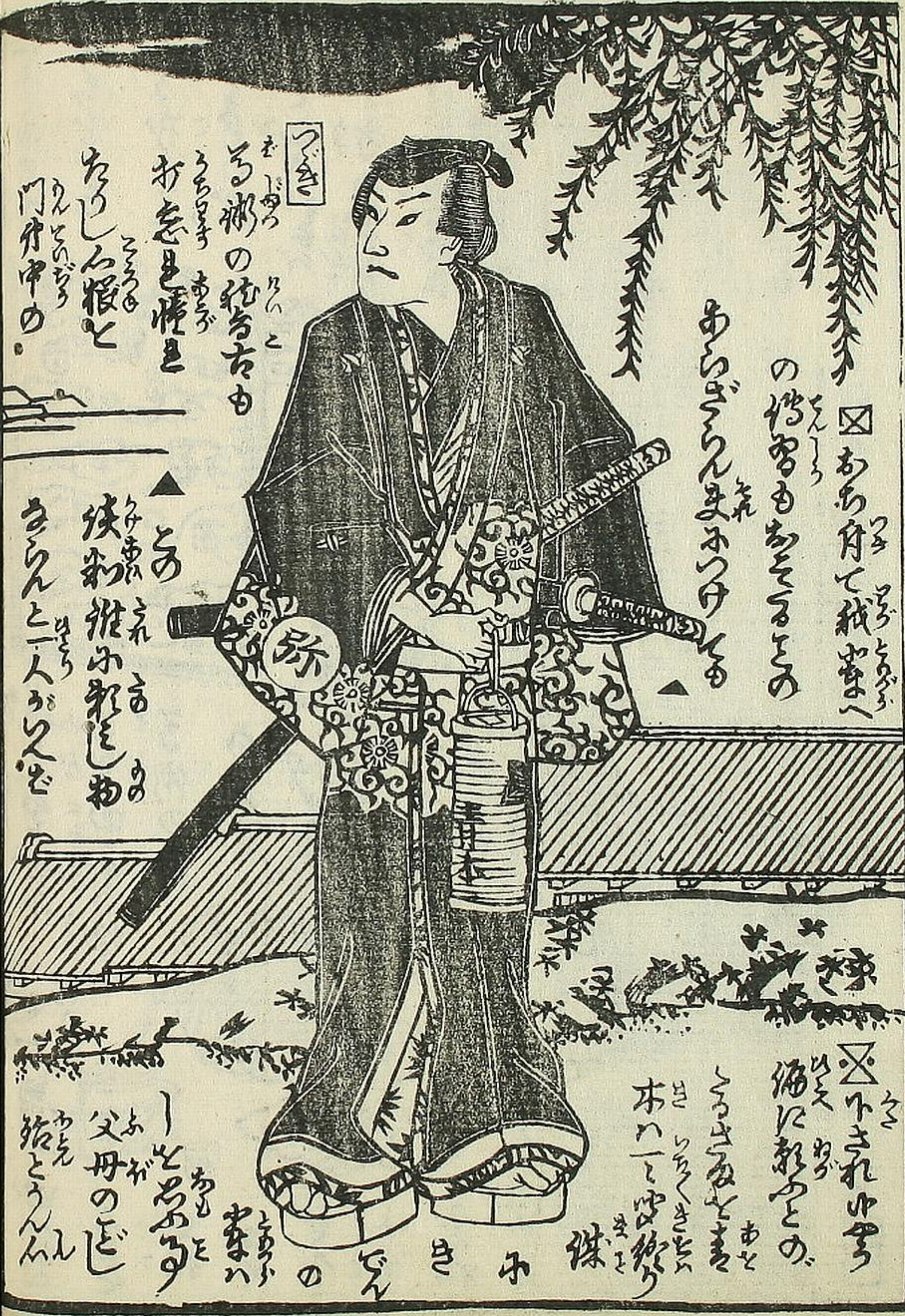
高
の言帳もそれは遠文
せし死科を頼りま本
おぼろんまと奸ちて出
らぬまはら何日の事まで
好より去程は史張よ
其の如くまきり書



其美以ゆ指とまへつら夜帯
盗賊の片方が形を不様似は
とらよ長びくおまうひ丹の紙由て
あまらんは後か己とのありまを
ら傍りとまを付あへともま
打まひまは紙まを
海まらばまのけそま
形とまじてあれま
前西ひくま紙の仕業
白紙



結とまるとまは張り後とら
は進きりへおまらまらまら
後後日の進擬とま
舟吹まを盗
紙の袋を
とまらま
まらん
と順して
疾りつ
の身
まらん
と順して
疾りつ



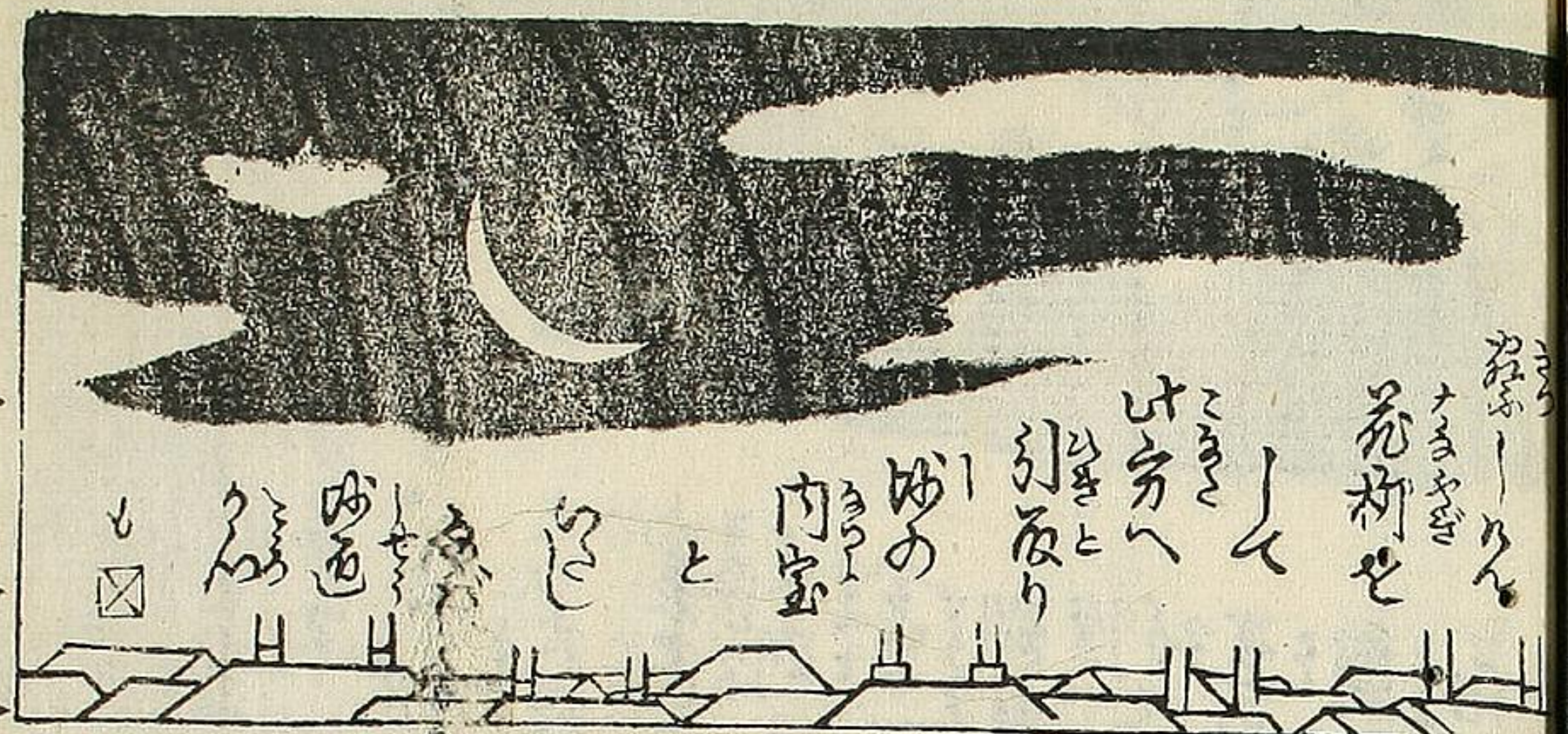
あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての

下まればやう
海にたつたの
木の一とつた

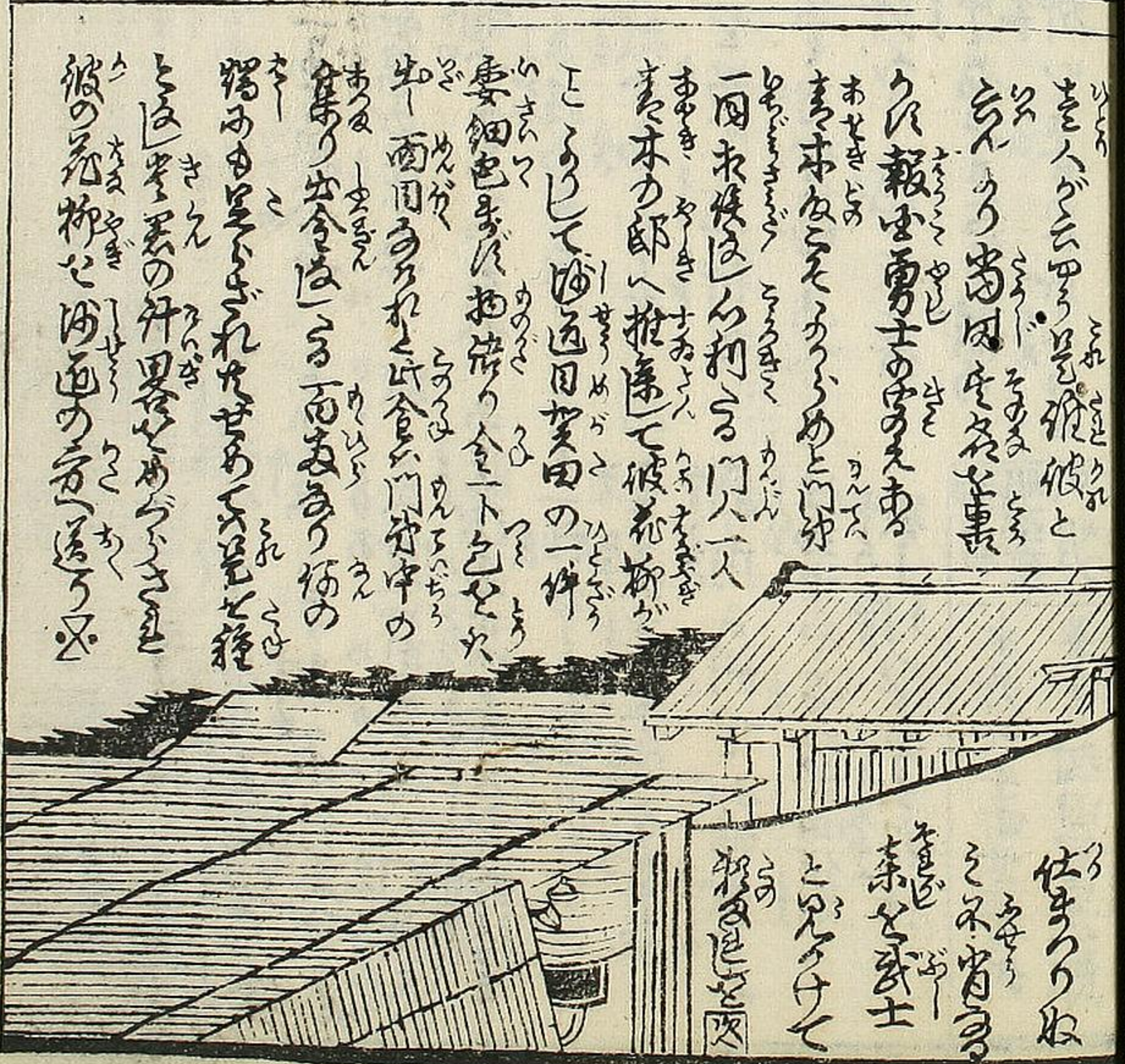
あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての

あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての

あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての

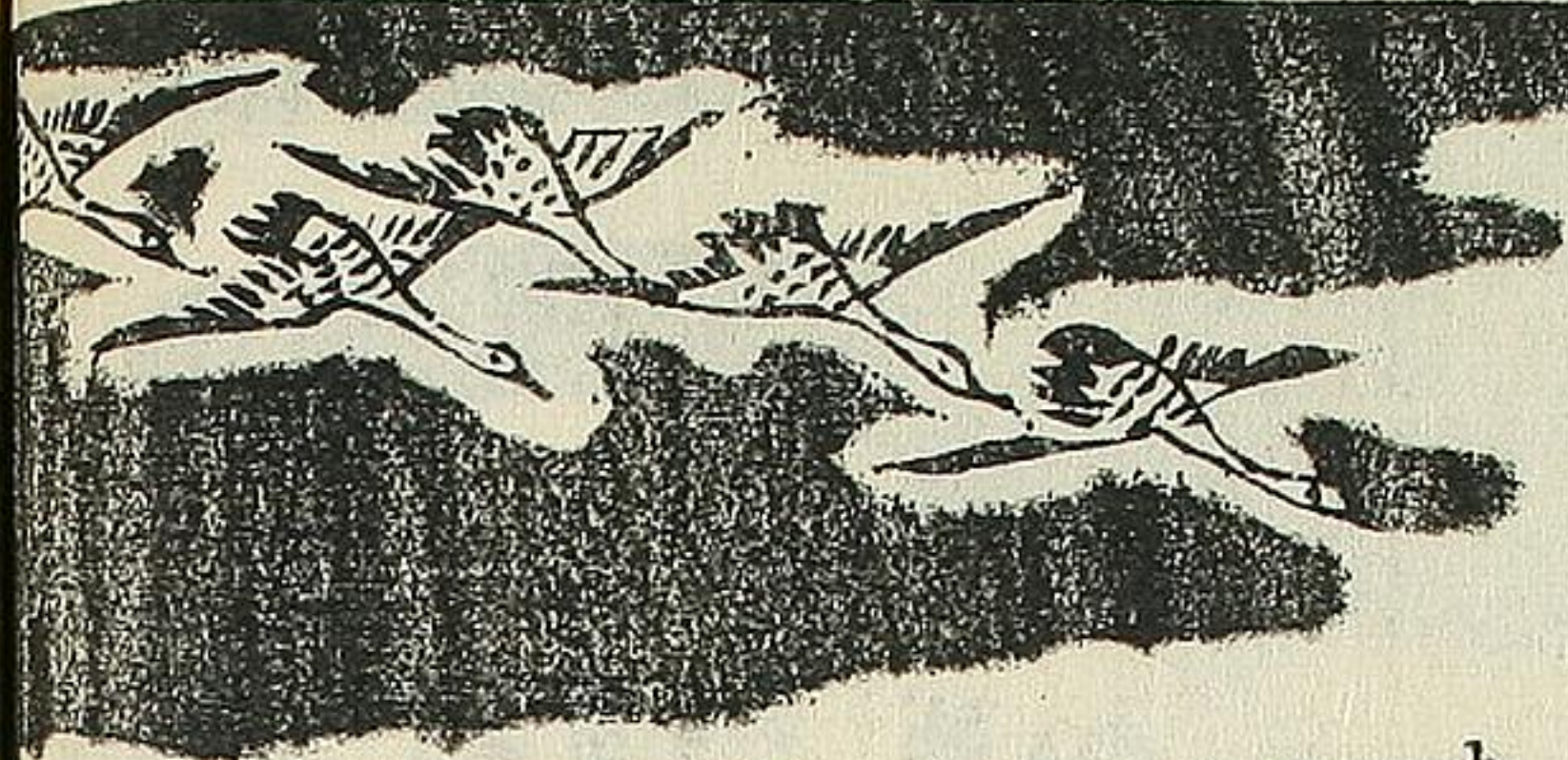


あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての



あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての

あつたてはあつたての
の徳もあつたての
あつたてはあつたての



手紙を茶屋にやらせぬあれ
 とも花柳の金と成す
 身替まき容あつと成す
 ふう十分の一を掛合
 とも大歌を聴の業を
 由是事柄よとのあひま
 来別小の成あまを
 金子と彼小あまを
 別後と成て花柳を
 此を同賀田との
 此の成へる花を
 銀をあると成る彼を
 花柳を妻あせむる由

御届
 本所外手町世番地
 著者羽田富次郎
 御届
 本所外手町世番地
 著者羽田富次郎

算法并用文證書類品々

草双紙類一代記讀切本類品々

事 情
 明治太平記
 村井静馬著 伏見より熊本まで五十五編
 鮮齋永濯画 十六編より鹿児島まで五編

○初編の伏見戦争と始まりと上野東叡山焼討と其外御一新
 案の事情明細に記し居るが人情開化一目的なること
 平かな付繪入り七婦女子小解と綴り書あり

書肆 問屋
 日本橋通三丁目四番地
 延壽堂 小林鉄次郎板元

010190508620

